

各教科における取り組み

今 村 敦 司・隅 田 久 文・渡 辺 絵 美

1. 国語

(1) 仮説

協同的探究学習は、生徒に概念の理解を図ることができる学習法である。国語科の授業では文章の読み取りで実践をしてきたが、論理の概念を形成することも可能ではないかと考え、「書くこと」の分野の授業での実践を試みることにした。具体的には、教科書の本文を読み、筆者の主張に対して自分がどのように考えるか小論文の形で書くという授業を通して、自分の考えを論理的に通った者にすることを考える実践を行った。

(2) 実践

1) 実践学年：高校2年

教材：『高等学校現代文B [改訂版]』（三省堂）「スポーツとナショナリズム」阿部潔

本教材はナショナリズムがスポーツに於いては寛容であることの理由を述べたうえで、そこに潜む危険性について我々のとるべき態度について書かれた文章である。ちょうど世間ではラグビーをはじめ、様々なスポーツの国別対抗戦が行われており、東京五輪も控え、世間の状況と本文の内容を比べて読み、自分の意見を構成できる良い機会と考えて選んだ。

本実践は、教科書にある文章を読んだ上で、生徒がその文章について批判的に分析し、自分の考えを意見文として書くというものである。その授業の中で、批判的に読むとはどういうことで、どういう視点を持つべきなのかを考える機会とすることを目的とした。

協同的探究学習は、生徒が自分の意見の構成を考えた後に、自分の論理を他人の考えた論理と比較する場面に入れた。生徒たちは取り上げた場面は様々だが、その論理の整合性で話し合うことにより、同じ土俵で話し合うことができる。他人の参考になる論理の構成や自分に足りない点を協同探究で交流できればと考え、この場面を設定した。

この授業の目的である「批判的に読むとはどういうことなのか、批判的に読むためにどういう視点を持つべきなのかを考える機会」がこの場面になるため、自分で考えたり他人から意見をもらったりする時間をたっぷり取って構成を考えさせた。同じ部分を取り出している

主張が異なる生徒がいる班もあり、お互いの意見をぶつけ合う良い機会となっているようであった。

(3) 評価

生徒たちは自分の論理構成に対して案外自信を持っており、他の生徒との協同探究場面で様々な意見をもらい、「そういう考えもあったか!」とつぶやく生徒が多数いた。自分が自信を持っていた論理性が意外にも面白いことに気づくことができたようである。実践においては多面的に自分の論を考えるように指導したのだが、やはり複数の他の生徒から指摘されると納得ができるようである。また、様々な観点から意見を広くもらうことができるので、自分の論の構成を柔軟に考える上で効果があった。課題としては、筆者の主張に対する自分の論ではなく、筆者の書いた些末なところを取り上げて自分の論を展開している生徒がいたということである。何が論点かを考えさせてから自分の考えを形成させたのであるが、あくまで筆者の主張に対して自分がどのように考えるか、もっと強調すべきであった。

意見文は書くことが大切なのではなく、いかに書く前に論理構成を詳細に考えるかが重要になる。協同的探究学習をこの場面に入れることは、生徒の論理を考える力に十分生かすことができると考えられる。

(文責 今村敦司)

2. 社会（地歴公民）

(1) はじめに

中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の学習が地理や歴史と異なるのは、制度やしくみに関する内容が多く、いわゆるチョーク&トークの授業では生徒に対して無味乾燥な内容という印象を与えてしまいがちなところである。公民の学習では生徒に学習内容をいかに身近な問題と捉えさせ、自ら考えさせるかがポイントとなるが、その点において協同的探究学習を取り入れることは有効である。筆者は中高ともに公民を担当することが多いが、ここでは高等学校公民科の実践事例を示す。

(2) 高等学校公民科での実践

1) 実施方法

本校の公民科は、高校2年次に現代社会2単位を全員が履修し、高校3年次に政治経済および倫理が選択科目として設定されている。また、高校1年次にSSHの学校設定科目であるSS課題研究Ⅱ（科学倫理）が設定されており、この科目は英語国語の教員とともに公民科の教

員が担当しており、現代社会の一部内容を先取りする形で扱っている。本報告の対象学年は、高校2年生および高校1年生である。協同的探究学習については年間を通して随時行った。基本的には、4人程度でのグループ学習という形態を採った。

2) 主な実践内容

単元	手法	内 容
地球環境問題	話し合い	地球環境問題に対して個人・民間・政府や自治体・国際社会全体でそれぞれできる取り組みを考え、共有する。
資源・エネルギー問題	話し合い	温室効果ガスを削減するための模擬国際会議を行う。日本（先進国）・中国（最大排出国）・マレーシア（新興国）・モンゴル（途上国）の立場に分かれて話し合う。
科学技術と生命	ロールプレイ	安楽死の是非について2人1組でロールプレイを行う。
高度情報社会	プリント記述	主張の異なる2つの社説を比較し、メディアリテラシーについて学ぶ。
労働問題	クイズ形式	厚生労働省作成の『まんが知って役立つ労働法Q&A』等を参考にして作成したクイズ形式のプリントを解く。
消費者問題	ロールプレイ	悪質商法に関するロールプレイを行うことで、当事者意識を持たせる。
企業（株式会社）	話し合い	証券知識普及プロジェクト作成の『ケーザイへの3つのトビラ』の中の「ワールドトレジャーランド再生計画」を活用して株式会社のしくみについて学ぶ。
夏休みの課題発表会	ポスターセッション	夏休みに、研究旅行で行く沖縄に関する新聞記事の一つ調べてくるという宿題を出し、その宿題の発表会を簡易的なポスターセッション形式で行う。
財政	話し合い	所得の違う4人で、一定の税を分担して納めるならどのようにそれぞれが負担すればよいか話し合い、公平な納税の在り方を考える。
民主政治の成立	話し合い	民主主義における物事の決定方法としてよく使われる多数決の在り方について、学校で起きうる架空の話（クラスでレクリエーションを決める話し合い）を題材に考える。
法の支配	話し合い	適切なルール の条件や、ルールの役割について、学校で起きうる架空の話（校舎改修で限られたスペースしかなくなった時に各部活動でどのようにシェアするか）を題材に考える。
テーマ学習「人口減少社会に立ち向かう～地方を救う方策とは～」	調べ学習 話し合い	人口減少克服と地方創生・東京一極集中からの転換を合わせて行う方策について考察する。まず『まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」』の中の4つの基本目標から一つを選び、冬休みの宿題として個人で案を考える。その後案が近い生徒で5人グループを構成した上で、内容を検討し、発表会を行い、評価を行う。

3) 検証評価

高校公民科では、毎年少しずつ協同的探究学習を取り入れた授業を増やしている。本校は、元々話し合いや発表などの参加型の授業が好きな生徒が多く、生徒たちには概ね好評である。

課題としては、まず第一に授業時数の確保の難しさが挙げられる。高等学校の内容は分量も多く、中学校の授業並みに授業に取り入れることは容易ではないことも事実であることから年間を見通しての精選が必要であると言える。第二にこれまでの取り組みを新科目「公共」の内容にどのように反映させていくかということである。この点については、次年度以降の課題と言える。

（文責 隅田久文）

3. 音楽（中学・音楽）

私は、音楽に対して「こんなふうに音楽で表現したい」という気持ちを自分なりにもち、仲間と「思いや意図」を共有しながら表現できる生徒を育てたい。しかし

ながら、音楽に対して仲間と一緒にどのように思いを込めたらいいのか、どんな意図をもって表現したらいいのか、具体的にわからないまま、ただ音楽活動に取り組む生徒が多い。仲間と同じ気持ちで表現する以前に、自分が音楽を通じてどのように表現したらいいかについて「思いや意図」をもつまでに至っていない。そこで、まずは生徒に明確な「思いや意図」を自分の中にもたせ、それらを周りの生徒と共有させることで、思いがけない表現方法を見つけたり、楽曲にふさわしい表現の仕方を取り入れたりすることができる機会を設けたい。

中学2年生で取り組む「時の旅人」では、強弱や速度、調性の変化が多くあり、情景や感情の移り変わりを感じ取って表現しやすく、それぞれのパートが主旋律を担当するため、どのパートも主役となれる。同じ音程の繰り返しではなく、いつも新しい旋律が表れるため、楽曲を分析する際に、区切って考えやすい。曲によって歌詞や雰囲気の違いを感じ取り、自分の考える表現につなげるためには、楽譜に書かれていること（音の変化、旋

律の流れ、強弱や速度、調性など）を把握し、それらを表現につなげるための手段として十分に取り入れていくことを最終目標とした。

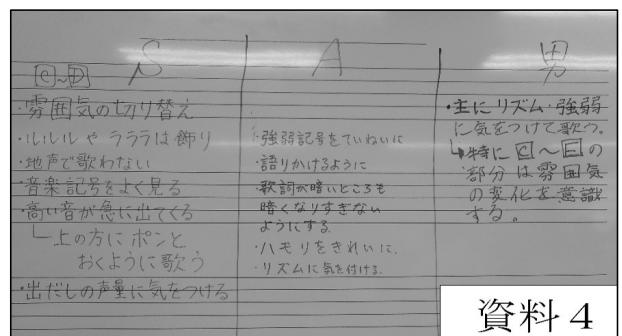
〈協同的探究に向けた実践〉

1. 雰囲気や各パートの役割を感じ取ろう
 - ・範唱を聴いて、曲の雰囲気を感じ取る。
 - ・各パートを教師のピアノとともに歌い、それぞれの特徴や役割を感じ取りながら歌唱する。
2. 自分に合った音域で堂々と歌唱しよう
 - ・自分に合ったパートを決定し、音取りをする。
 - ・ピアノが弾ける生徒に旋律を弾かせて（いない場合はパート別CDか教員のピアノで対応）、自分たちで音取りをし、のびのびと歌唱する。
3. 思いや意図をもち、仲間と共有しよう
 - ・どのように歌うとよいか、楽譜に記されている記号や歌詞をもとに、自分や仲間の思いや意図を話し合ったり発表したりして共有する。
4. 思いや意図を表現につなげ、合唱を創り上げよう
 - ・前時をふまえて、共有した思いや意図を表現につなげる。



実践1、2では、教師または生徒のピアノで音取りをして歌唱できるようにした。実践3では、個人で「どのように歌いたいのか」のポイントを絞り、1人一枚の付箋を使って、具体的に「楽譜のどの場所のどのポイント（歌詞、音楽記号、旋律、リズム、強弱、速度、など）をどのように歌うとよいか」を考えさせた（個人探究学習）。パートでかたまり、個人で記述した付箋をみんなに伝えながら該当場所（プリント）に貼った（資料1）。各々がどんな思いや意図をもっているか、どんなことを意識したり、考えたりしているかがわかるように、付箋を貼るプリントには、1.歌詞、2.強弱・速度の変化、3.音の高低、4.曲想（雰囲気など）の箇所が分けられており、記述した内容に応じて近い場所に貼り付けた。

各パートで貼られた付箋をリーダーが主となってパートで話し合い（資料2、3）、集約し、「特にパートで意識したいこと」を決めて、クラス全体に対して発表した（資料4）。



〈発表の内容（資料4：中学2年生、時の旅人）〉

ソプラノパート（S）…

C～Dの雰囲気の切り替え、ルルルやラララは飾り、地声で歌わない、音楽記号をよく見る、高い音が急にでてくるため上の方にポンと置くように歌う、出だしの声量に気をつける

アルトパート（A）…

強弱記号を丁寧に、語りかけるように、暗くなりすぎないようにする、ハモリをきれいに、リズムに気をつける

男声パート（男）…

主にリズム・強弱に気をつけて歌う、特にC～Fの部分は雰囲気の変化を意識する

パート内の各生徒が「特にパートで意識したいこと」を意識して歌うことを心掛け、さらに他のパートがどのようなことに気をつけて歌うのかを把握して、合唱練習を行った。自分が担当するパートだけでなく、他のパートにも耳を傾け、どのようなことに気をつけながら歌唱しているのかをわかった上で合唱することで、主旋律でない場所では美しいハーモニーを奏でられるよう声量に気をつけたり、他のパートが意識していることを知ることと同じ気持ちをもちながら歌唱につなげられたりすることができた。

今後の課題は、曲への理解を深めることや仲間の思いを知って共有することにとどまってしまったため、これらを演奏での表現にどう生かしていくかということまでつなげていきたい。特に3月には合唱祭があり、一年間ともに過ごしてきたクラスメイト達と声を一つに合わせて合唱する機会がある。今回、様々な視点から曲への理解を深められたことを基に、強弱や速度記号がメロディーや詩とどのような関わりがあってどのように変化しているかということ、詩を朗読してその情景を思い浮かべてみることに、引き立たせたい場所を引き立たせるためにどのように表現していくとよいかなど、多くの疑問や思いをもちながら、それらを自分たちなりに表現できる音楽活動につなげられることを目標にしていきたい。

(文責 渡辺絵美)